

皇子たちの学用品

明治41年(1908)1月、裕仁親王・雍仁親王・宣仁親王の三皇孫(皇子)は、父である皇太子嘉仁親王(大正天皇)から金製の鉛筆入れを授けられた。同年4月に学習院初等学科へ入学した裕仁親王は、始業式の日には皇太子妃節子(貞明皇后)から、硯や文鎮等の文房具一式を贈られている。叔母の常宮昌子内親王に対面した際には銀製の文房具一組を、皇后(昭憲皇太后)からは蒔絵文箱や懐中硯箱を…。『昭和天皇実録』をひもとけば、学齢期にあった裕仁親王には文房具類が折にふれて贈られていたことがうかがわれる。

当時の学習院長乃木希典は“質素”を重んじていたため、金銀製の文房具を学校で使用することはなかったであろう。その教えは大正期にも引き継がれたと見え、雍仁親王が毛筆を入れていたのは図工の課題作品と思しき箱であるし、宣仁親王の色鉛筆箱は白木造りである。舶来品と見える鉛筆なども残されているが、身の周りには簡素な学用品も用いられていた。

しかしながらその一方で、蒔絵の施された漆塗りの鉛筆箱なども使用されていた。この箱はランドセルの側面に嵌め込んでベルトで固定するようになっており、ぴったりのサイズに調製されているため、端の損傷が著しい。当館に伝わる3点の内一つは菊の絵柄で、花開く一輪の下に膨らみかける3つの小さな蕾は三皇子を思わせる。2点目には銀を撒いた月と瓢箪、3点目には桜と日章旗があらわされており、日月の対をなす意匠となっている。桜模様の箱の底には紙が敷かれ、おそらくは宣仁親王自身が芯を削り出したのであろう鉛筆が7本、残されている。

大正3年(1914)に初等学科を卒業した皇太子裕仁親王は、その後恒例として、卒業生のうち中等学科の優等生1名へ銀時計を、初等学科には2名へ「製図器械」を授与～台賜～した。地図を正確に引き、図面を読み取る技術は、将来軍人となるよう教育されていた当時の学習院学生にとって、磨くべき技能のひとつであった。裕仁親王は皇族の卒業生に対面した折にも製図器械を贈っている。下の製図用具は、宣仁親王が所持していた内の一つである。



高松宮宣仁親王所用 鉛筆箱 明治40年代～大正初期〔当館蔵〕



高松宮宣仁親王所用 色鉛筆箱 大正4年頃〔当館蔵〕



高松宮宣仁親王筆 写生画 大正2年〔当館蔵〕
初等学科2年時に描いた色鉛筆画で、海や山は数色を織り交せて着色されている。右は日付から、避寒滞在先の沼津風景とみられる。



高松宮宣仁親王所用 製図用具 大正初期〔当館蔵〕

(EF共同研究員 戸矢浩子)

学習院大学史料館からのお知らせ

令和2年度学習院大学史料館秋季特別展

「筆が織りなす皇室の美」

【主催】学習院大学史料館

【共催】一般社団法人 霞会館

【協力】学習院大学文学部史学科

*学習院大学では、感染症拡大防止策として入構を制限しているため、当展覧会は動画配信による公開といたします。下記URLよりホームページをご覧ください。

<https://www.gakushuin.ac.jp/univ/ua/>

【動画配信期間】令和2年10月15日(木)～12月5日(土)

【関連講座】第91回学習院大学史料館講座

「宸翰の鑑賞—時代とその風格を味わう—」

講師：島谷弘幸氏(九州国立博物館長)

*本講座は11月21日(土)～12月5日(土)の間、当館ホームページにて動画を配信いたします。

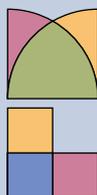
ミュージアム・レター第43号

令和2年(2020)10月1日発行

〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1

電話 03(5992)1173

FAX 03(5992)9219



Gakushuin University Museum of History
学習院大学史料館

<http://www.gakushuin.ac.jp/univ/ua>